



浮遊する感覚で、
好きなときに好きなものを描く。

内山依津花^{いづか}さんは、静岡県浜松市出身。幼稚園の頃は、さわると閉じる「ハエトリグサ」がお気に入りだった。絵を描くのが好きで読書が好き。繊細で多感な少女は、中学で美術部員となり、その作品は、浜松市の風景画コンクールで金賞を取るまでに。

地元の工業高校のデザイン科に進むと、本格的に油絵に魅せられた。「自分が描きたいものをただ描きたい」欲求に駆られ、暇さえあれば大きなキャンパスに向かい筆を走らせた。油絵科のある大学を探して、沖縄へ。大好きになった沖縄で創作活動を続け、縁あって湯梨浜にやって来たのは4年ほど前のこと。

「松崎のゲストハウス「たみ」やカフェ「梅や」での魅力ある出会いに心を奪われ、湯梨浜人となった。

まず、この人たちの挨拶のクオリティにびっくり。丁寧に「ここにこと」「はい、こんにちは」と返してくれる人の良さとやさしい空気に刺激を受けて、鳥取↓浜松↓沖縄を巡回する個展も開催した。

湯梨浜では絵の前でお年寄りに歌ってもらい、ふるさと浜松では子供連れの同級生が参加。沖縄に渡る頃には、多彩に増殖した絵画と記録映像ができて上っていた。

笑顔の多才は、「いい公園があるから、次に住むならチェコと決めています」

枠を超えて(時空も超えて?)自由に生きる、天女がここにもいた。

内山依津花 画家



ゆ
う
ゆ
う、

は
り
ま